第2回 川崎市史市制100周年記念版 編集懇談会 会議録(摘録)

- 1 日時 令和6年12月26日(木)午後7時～午後8時50分
- 2 場所 川崎市総合自治会館 大会議室3
- 3 出席者
- (1) 委員 阿久津委員(オンライン参加)、大城委員、落合委員、嶋田委員
鈴木(勇)委員、高田委員、竹内委員、中村委員
にしにし家委員、羽賀委員、福森委員、望月委員
- (2) 事務局 総務企画局コンプライアンス推進・行政情報管理部：小野部長
総務企画局公文書館：相原館長、堀切担当係長
TOPPAN株式会社：浅井、大高、荒井
株式会社トップノック：片岡
- (4) 関係者 市史だよりライター：早川
株式会社アーク・コミュニケーションズ：佐藤、渡部
- 4 次第 (1) 開会／趣旨説明
(2) 年表についての意見交換
(3) 目次案についての意見交換
(4) 第4回編集懇談会への検討依頼
(5) 総括／次回案内
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴者 なし

(次第一) 開会／趣旨説明

事務局(堀切)

本日は、お忙しい中、川崎市市制100周年記念版の第2回編集懇談会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。本日は阿久津委員がZOOMでのご参加となっております。(中略) それでは第2回編集懇談会を始めさせていただきます。

以降の進行は事務局の片岡さんから進めさせていただきます。

(編集註 意見交換の参考資料として、市制100周年記念誌『カワサキノコト』、

副教材『かわさき 2014』、福岡市史『わたしたちの福岡市』を座席周辺に配置)

事務局 (片岡)

第1回懇談会では大変アクティブな議論をいただきまして、ありがとうございます。今回も前回同様、様々なご意見を賜ればと思います。よろしくお願いいたします。

今回につきましては、年表と目次という書籍の肝となるところです。様々な方にどうやったら読んでもらえるかという観点でお話いただければと思っております。

おおよその目安としましては、年表に関して大体30分ぐらい、目次に関して40分ぐらいの時間配分を予定しています。そして会の最後には、第4回の議題の事前提示として、インタビューページに載せるべきテーマについてご説明をいたします。

配布資料の確認をいたします。まず編集懇談会の『次第』。そして『目次案』。そして『アンケート結果報告書』と、結果報告書のそれぞれの『個別回答』。あとは参考資料としての年表が2種類(『カワサキノコト』と『かわさき 2014』から年表を抜粋)あります。

(各委員はその場で手元の配布資料を確認)

事務局 (片岡)

それでは、こちらの資料を参考程度に見ていただきながら、進めてまいります。

アンケートは(令和6年)11月に開催されましたColors, Future! Summitと、緑化フェアと、みんなの川崎祭の来場者に回答いただいたものです。

次に年表について、どういったことを議論するかを含め、書籍の編集を担当する渡部から説明させていただきます。

事務局 (渡部)

年表は、アンケートでも数は多くはないですが「市の変遷を読みたい」という意見があったので、(変遷を示すものとしての年表を)今回は巻末に置く予定でございます。

ただ、年表というのは、読んでもらう優先度の低いページなので、どうやったら年表を読んでもらえるか、どんな項目が載っていたら読みたくなるか、どんな仕掛けがあったら読みたくなるか、あと川崎らしい年表とはどんなものかを、皆さんからアイデアをいただけたらと思っております。

事務局 (片岡)

<アンケートの実施概要の説明>

委員の方でアンケート結果資料をすでに読み込みましたという方は?

(何名かの委員が挙手)

事務局（片岡）

ありがとうございます。

そうしましたら、ちょっと合わせて目次案の方もざっと説明させていただければと思います。こちらについても渡部さんお願いします。

事務局（渡部）

目次案につきましては、まず冒頭にビジュアル中心のページを設けています。いわゆる「写真グラビア」や、少年漫画などの「漫画誌」もそうなのですが、ビジュアル中心にページを冒頭に持ってきて、その後の「川崎テーマ史」というところからじっくり読ませるように作る構想です。続く川崎のテーマ史は、川崎らしい「カルチャー」を先に配置して、行政、まちづくり、産業、生活、福祉、教育、文化といった基本項目もしっかり見せていきます。こちらの方にもアンケートの結果を取り入れています。次のページにある「わた史」という部分は、インタビューページです。この人選について第4回でアイデアをお出しいただく予定です。その後の、「激狭テーマ史」は、先ほどお伝えしたテーマ史よりもう少し狭い範囲で考えるもので、2025年の1月・2月に開催される市民ワークショップでいただいた意見を取り入れながら構成する想定です。最後の方に入っている「川崎クロニクル」が年表を指します。

事務局（片岡）

ありがとうございます。あくまでこちらはアンケートの回答結果を踏まえ事務局が検討し、現状の案としてまとめたものです。あらためて皆様のご意見をいただいた上で、より分かりやすいものとか、「その項目ってこういうふうに変更して良いじゃない」とかというところをしっかりと議論していければと思います。

（次第一2） 年表についての意見交換

事務局（片岡）

それでは早速本題に入りますが、まず前提が、目次と年表がもう入っています。

そもそも、皆さんは読むのかっていうところについて、目次とか、年表ってどれぐらい見ているのだろうというところから話を広げていきたいなと思っています。

まず、こういった市史（や、学校の副教材、冊子等）の中に、年表があると必ず読むという方は、どのぐらいいらっしゃいますか。

（大城委員、中村委員が挙手）

事務局（片岡）

結構読まない方が多いですね。他の方は読まないですか、気にならないですか。読みたくないはないと思うのですが、もう読まないというニュアンスですかね。

嶋田委員

見るとか、さっと見て、知っている単語のところだけは見る（感じですね）。ちゃんと読まないです。

事務局（片岡）

なるほど。ちゃんとは読まないよという「△」（三角）の方（どのぐらいいらっしゃるのですか）。

（高田委員、竹内委員、にしにし家委員が挙手）

（編集註 読む：○、読まない：×、ちゃんとは読まない：△ を意図しています）

事務局（片岡）

その他は全く気にしたことはなかったという感じですか。

鈴木（勇）委員

必要なところを確認するという感じです。

事務局（片岡）

どちらかという「△」に近いですか。

鈴木（勇）委員

三分割するとそうかなと思います。

事務局（片岡）

「△」のマイナスぐらいの感じですね。

（落合委員、望月委員も挙手）

福森委員

社会科とか歴史が苦手だったので、苦手意識からトラウマですね。年号とかちょっと覚えるのが苦手だったのです。人の名前があんまりピンとこないの、飛ばしちゃいます。

事務局（片岡）

飛ばしちゃいますね。一応「×」（バツ）ですね。羽賀さん、いかがですか。

羽賀委員

「△」ですね。時々戻って、いつだろみたい（感じで読むくらいです）。最初は見ないです。

事務局（片岡）

なるほど。コンテンツから（入るのですね）。阿久津さん、いかがですか。

阿久津委員

気になるところだけ見て、気になるところでこれからまた調べたいなっていう感じ

ですね。

事務局（片岡）

なるほどですね。じゃあ、「△」のマイナスというところですかね。ありがとうございます。

年表を読まない人は多分世の中にいっぱいいると思います。その人たちがなぜ読まないのか、今一度確認していきたいと思います。それを踏まえて、「どういったコンテンツだったら読んでみたい」といったところのヒントになるかなと思います。

読む方については、「どういったものが載っているから読むよね」ということがありますので、そこからどういうコンテンツに引っ張っていくと、より分かりやすいかを見ていきたいと思っております。

嶋田さん、いかがですか。

嶋田委員

本で言えば、まずペラペラって見て、おいしいところだけ食べれば、良いじゃないですか。だって、別に義務というわけではないので。好きなところだけつまみ食いすれば良いかなと思います。目次を見なくても、ペラペラってめくればおいしい（面白い）ところを読みます。

事務局（片岡）

なるほど。割と年表と目次がイコールの感じのイメージですか。

嶋田委員

そうですね。（学生時代に）社会科の図録とか、歴史の図録があったじゃないですか、写真ばかり（のタイプ）。こういう横長判型の本を見るのは大好きだったので、その中で、戦国時代の鎧とか、お城のところとか、そういうおいしいところだけで、基本ビジュアルですね。年表は見なくても、ペラペラめくったら大体歴史の流れは分かるので、あえて年表を見ることは無いかなと思います。

事務局（片岡）

勝手な記憶なのですが、割と嶋田さんは、歴史に深く通じているというイメージがあるのですが、それは知っているからあんまりそれ以上（に読まないのですか）。

なんかこう、大体分かるなっていうところなのか、割と昔からの感じでしたか。

嶋田委員

そうですね。昔から好きなところから広がるのです。勉強じゃないから、好きなので、だから好きなところから広がる感じですよ。

事務局（片岡）

なるほど。ちょっと後ほど、川崎だったらどういったところなのかを聞いていければと思うので、また後ほどお伺いできると思います。

ありがとうございます。じゃあ、福森さん、社会科があまり自分の中で良い思い出がなかったから読まないっていうところと、何かもう一つアイデアを加えるならどんなものがありますか。

福森委員

普通に暗記しなきゃいけないような感じがあります。強迫観念じゃないけど、自分の中で、そういう思いがまず来ちゃうんですけど、文字ばかりではなくて、この（『カワサキノコト』の）年表、やっぱ写真があるのが良いのなと思っています。

もうちょっと写真と連動して、川崎の成り立ちと暮らしぶりが分かるようなビジュアル中心のものがあると、年表っていうよりも写真中心の方が良いのかな。数字と人の名前ばかりだと、とにかく僕は飛ばしちゃいますね。

事務局（片岡）

ありがとうございます。多分結構そのほうが意見として多い気もします。

写真が多かったりとか、あとやっぱり自分の生活に近いものがあったりすると、多少気になって読みたいということですかね。

じゃあちょっと「△」の方々は最後に聞きつつ、逆に読むと、興味バリバリで読めますという、中村さんからいただければと思います。

中村委員

興味バリバリという意味で手を挙げたわけじゃないんですけど、どんな内容がこの本に書かれているかをササって読むという意味合いです。絶対マストみたいなのがちょっと私と違うんですけど、さっきの皆さんと同じで、なんか私も結果、自分の興味があるところにたどり着くために目次を読んでいるだけで、この本に何が書かれているかを知るために目次を読んでいるので、皆さんとスタンスは多分ほぼ同じです。

事務局（片岡）

ありがとうございます。ちなみに目次っていうのはありつつで、割と備考のイメージなのですかね。

中村委員

年表も同じぐらいの感じで、全部をバーって読んでいるわけじゃなく、川崎市ってこんな風にできたのだから、一言一句を見るわけではなく、なんかササっと、ほんとに「見る」というぐらいです。自分が興味のある、それこそ私は麻生区に住んでいるので、「岡上とここが最後に一緒になって、今の川崎市ができるっていうのが、この

何年なのだね」(のところを見たら)、へーみたいな。自分の住んでいるところとマッチングした場所の情報とかを見ていたりして。だから、これで何かを読むとか、ガッツリ読むとかではなく、自分の住んでいる場所とか、それこそ「こういうのがあるのだった」(と知って)、帰って、子どもに言おうとか、本当にそういう感じの情報取得になっている感じです。

事務局 (片岡)

なるほどです。でもそれはやっぱり自分が住んでいるからこそ、それを読みたくなるとか、それを知って、周りに「こんなだったよ」みたいなところが一つありますね。知識欲じゃないですけど、伝えていけるとより楽しくなるか、というところですよ。

中村委員

ほんとにそんな感じです。だから時系列の醍醐味って多分そこかなというぐらいで、自分の知っている場所が何年ぐらいにできて、みたいなのを偶然自分の重なる部分だけが気になるだけです。

事務局 (片岡)

確かにそうですね。ありがとうございます。自分にマッチしていることの深掘りによって、知ることの楽しさみたいなところが年表の醍醐味じゃないかというところですね。ありがとうございます。大城さん、いかがでしょう。

大城委員

私は全体像を掴むのが好きなので、どこに行ってもこの街の成り立ち、なんかこの100年史というよりは、そもそも、江戸時代は何藩だったんだろうみたいなことに興味があるんですけど。

今、この年表はうまくできていると思うんですけど、すごく専門用語が多いですよ。地域の名前って全然知らない人が見ても意味が分からないですよ。住んでみてから、住み始めて10年とか経っているから、暮らしの中でイメージできる場所があると、やっと見えて面白くなりますね。引っ越してきてすぐは全然面白くないと思います。それこそ、川崎のあたりが何藩だったのか、お城はあったのかぐらいなのかと思います。

事務局 (片岡)

今回の100周年市史って、外の人が見ても中の人が見ても面白い、というところも一つ大事なことなのかなと思いました。その年表も、ライトなものもあって、コアなものもあるというところも、年表としてのバリューを高める一つの面白いところなのかなと思います。

大城委員

そういう感じなので、年表と目次は、私は別物と思います。目次は目次っていうか、内容は内容で色々あってね。年表は全体を把握するためのものと思います。

事務局（片岡）

年表は1つのコンテンツとして読めるものっていうイメージですかね。なるほど。ありがとうございます。そこでいくと、次は「△」からいきましょうか。

羽賀さん、いかがでしょうか。

羽賀委員

私は多分、年表ってこの横長の形式だから難しいと思うのですが、地図と連動して見られたら、もっと分かりやすいし、自分の住んでいるその場所だけを見られるなと思って、そういう年表をちょっと見てみたいっていう感じです。

事務局（片岡）

自分の興味があるところを見ていこうという話を、最初にいただいたかと思うのですが、それは、ぱっと見て自分がこの地区と連動しているからちょっと見てみようみたいな興味が、ビジュアル的にすぐ入りやすいみたいなどの観点からですか。

羽賀委員

そうですね。

事務局（片岡）

なるほど。先ほどいただいた案と一緒に思うのですが、自分にマッチしているかを知りたい。中村さんのご意見のところと、今羽賀さんに連動していると思うのですが、なにか1番最初に年表を読んでみたいと思ったタイミングとかあったのですか。

羽賀委員

高校までは多分もうテストのことでいっぱい、なにか年（号）も一緒に覚えなきゃいけないみたいな。時系列で覚えることは、やっぱり苦手意識があったこともあってか、高校を卒業してからとかですかね。あとは新しい場所に行った時とかは（読むと）思います。

事務局（片岡）

割と勉強だけではなく、生活の中でより新しいことをプラスアルファで知っていきこうという意欲が芽生え始めた時に、より楽しいものになってきたというようなイメージですね。にしにし家さん、いかがでしょうか？

にしにし家委員

年表で気になったのは、日本の歴史の時に川崎市は何やっていたのだろうみたいなことです。二ヶ領用水がうちの近くにあるのですが、それが江戸時代付近にできたものというのが見たいのです。

自分が住んでいる町とか、自分が住んでいる近所のものがいつ頃できたのかとか、やっぱり自分に関係があることが気になりますよね。

なので、本来、この年表で言うと、全体像を掴んでほしい意図があるかもしれないのですが、それは結構知らない単語の羅列に過ぎなくて、あまり見ようって気にはならないかもしれないです。あとは、こっちで言うと、その岡本太郎美術館とかの近くにあるとか、あと、生まれた年にできた建物とか。私と同年の建物が気になるとか（もあります）。

事務局（片岡）

やっぱり自分と関係しているのはすごく興味がわくのですか。

にしにし家委員

そうですね。何かしらの（自分の）知識にまつわるというか、自分にまつわるものがどこに位置するのだろうっていうような見方で見るかな。全体像を掴もうとしては、あまり見ないと思います。

事務局（片岡）

なぜ年表を見るのかというところは、やっぱり自分に合ったものを見るのがきっかけだと思うのですが。なぜ見るのかって、結局、どちらかという、欲求というところだと思うのですが。どんなマインドになるから読んでみたいという感じになるのか、私で言うとタイムスリップを勝手にしているイメージです。そういった感覚で、見たいなとか思ったりします。この日本と連動していて、自分に合っているものがあつたからです。欲求の根底として、どういうものがあるから見てみたい（となるのかを伺いたいです）。

にしにし家委員

自分の地図上でどこにいるのかを知りたいのかと近しいかと思えます。自分の知識とか、自分の知っているものが全体の歴史の中のどこにいるのかということが気になるのではないのでしょうか。

事務局（片岡）

自分がどこにいるとか、存在しているのか。やっぱエンターテイメントとして、楽しみですね。ありがとうございます。

にしにし家委員

でも、さっきお話を聞いていて、この川崎らへんに城があったのかとか気になりますね。お殿様は誰だったのか、ちょっと気になります。

嶋田委員

お城っていうのも、みんながイメージする天守閣って、歴史上最初に作られたのは安土城なのです。それ以前のお城では天守閣がなくて、やっぱりやぐらっぽいものだったのです。「なんとか城」って、例えば渋谷にあった渋谷城とかの跡があるのですが、あれは天守閣があったわけじゃなくて、やぐらですね。

川崎はそういう意味では、ちゃんとしたお城があります。たとえば丸子城とか。

(中略)

そういうお城があるところは眺めが良いのと、あと、いわゆるパワースポットなので、やっぱり神社があったりとか、お寺があったりとか、古墳があったりとか、そういういわれのあるものがあるところが城という（ことになります）。

事務局（片岡）

ありがとうございます。逆に勉強させていただいて、ありがとうございます。竹内さん、どうでしょう。この年表についていかがでしょうか。

竹内委員

この形（『カワサキノコト』）の年表は、どちらかというと、索引的な意味合いが強いかなと思っていて、私の場合はこれをざっと見てもあまり頭に入らないです。

なぜかという、いろんなことが書いてあって、ジャンルがいろんなものが入っているじゃないですか。川崎が市になってからの100年についても、かなりいろんな種類の情報が一表に書いてあるので、一つの表にしなくてジャンルで分けてしまうほうがわかりやすいと思います。橋を作ったというのは行政的なものですし、どこかが工場を建てたっていうのは産業です。あるいは、フロンターレだったら、スポーツ・文化とか。ミュージアムができた、とかもそうですね。

そういう風に分けると、この100年についてのイメージは分かりやすいかと思いません。それから、皆さんがおっしゃっているように、各地域のことが、地名がいっぱい出てくるので、例えば「田島町、市に編入」という記事の意味が、川崎南部の人は分かるけど、市外の人や、市内でも他の地域の人にはわかりません。「田島町（現川崎区）、市に編入」と添えておくと理解が進むと思います。

皆さんがおっしゃったように、時代によって情報の密度が違うので、例えば旧石器時代から古墳時代ぐらいまで一まとめにするとか、それから平安時代から室町時代ぐらいまでとか。江戸時代は比較的情報が多いですし、ここはひょっとしたら地区別に

分けるとか。だから、大昔から現在の一つの年表にするじゃなくて、時代で分けるといふのと、この100年ぐらいはジャンル別に分けるとか。こうすると、非常に理解がしやすい気がしました。

あと、この目次って、写真とかがあるのがとても良いと思います。私が申し上げたことと組み合わせをすると、非常にページ数は増えると思いますけれど、コンテンツとしての魅力が増すと思いました。

事務局（片岡）

ありがとうございます。今いただいたご意見は、どちらかという自分に興味があるっていうものが多いと思います。多分年表は「自分で探さないよ」っていうものになっていると思うけど、どちらかというその部分をより噛み砕いて、音楽に興味がある人は年表のこれを見たら一括で分かるよとか、そういった意味合いで、より深く知るきっかけを提供してあげる、入口を広げる、みたいなイメージですよ。

竹内委員

そうすると、それぞれの興味あるジャンルでご覧になると思いますから、イメージが非常につかみやすくなります。

嶋田委員

ちょっとよろしいですか。中国の歴史のまとめ方で、編年体と紀伝体があって、要は、通史で語るのか、そのテーマごと、人物ごとで語るのかっていうので歴史書が作られているのですね。

中国の歴史書は紀伝体で、人物が主体であったりします。この年表は、編年体の形なので、今お話があったように、テーマごととか、その人物ごととかにすると、食いつきやすいという話だと思うのですが、そういうまとめ方はあるんじゃないかなと思います。

事務局（片岡）

ちょっとだけ掘り下げて、なんで中国の歴史は、分かれているのですか。あんまりそういう年表を見たことがないです。

嶋田委員

人間の認識が、全部時代ごとというのとは、割となんか客観的な見方で、主観的な見方なんじゃないですかね。なんかテーマでくくるといふのは主観的な見方ですね。

事務局（片岡）

なるほど。多分、羅列して書いていくと、とんでもない物量で読み切らないから、コンテンツにある程度分けて、先ほど竹内さんがおっしゃっていただいたように、興味があるものを掴んで見られるようにしているのもあるかもしれません。

嶋田委員

そうですね。漫画日本史も通史の時代ごとのやつと、人物ごとのものがあるじゃないですか。僕なんか人物のほうをばっかりを読んでいたのですが、そっちの方が面白かったです。やっぱり客観的な話よりも、なんか具体的な人物とか、一つの時代みたいなことが描かれていた方が入ってきやすいと思います。

事務局（片岡）

ありがとうございます。やっぱり入口をしっかり広げて、よりいろんな人に読んでもらうということでしょうか。高田さんはいかがでしょう？

高田委員

私もやはり興味があることから読みたいです。

例えば『カワサキノコト』の年表を例にとると、橋や公園の完成、バスの開通などが記載されています。大、中、小の分類を追加し、目次と合致するキーワードを入れると、読者は興味がある箇所から読むことができ、より良いと思います。

事務局（片岡）

ちなみに、その大項目っていうのが、今はどちらかというと出来事目線かと思いますが、多分、コンテンツ目線とか色々な案が出てくると思うのですが、高田さんのお考えとしては出来事目線の大項目でしょうか。

高田委員

キーワード、単語を想定していました。ここには、川崎大空襲、橋の完成、公園の完成などが時系列に記載されています。例えば公園が好きな方は公園というキーワードを入り口として読み始めてもらうことが重要かと考えます。

先ほど福岡市史『わたしたちの福岡市』を拝見しましたが、テーマの深堀として年表があるのは、56 ページ目に交通のこと、62 ページ目に大学の変遷の 2 点です。

今回、川崎市のアンケートで人気が高い、電車、神社仏閣、スポーツなど。グローバルに人気があり訪問の目的にもなるキーワードを目次とし、年表の大項目とリンクする想定です。

事務局（片岡）

確かにそうです。今おっしゃっているところって、もうとりあえず全部なめていくと、どの場所においても、書くことがいっぱいあると思うのですが、その地区によって、まさにそれは大学、福岡ですと大学や交通とかであったと思うのですが、川崎において、「どこの部分を掘り下げて年表が書かれていると、より興味が湧くのだっけ」というと、多分各都市の特色が全然違うと思うので、なんかそういったものは確かに面白いと思います。

事務局（片岡）

でもそれこそ今おっしゃったように、それがやっぱりアンケートにもあったのですが、やっぱり便利だったり、交通だったりのところが一つ軸になって、結果的にそこに興味あるとか、多分それは「まち」（都市）ごとに違って良いと思うのですよね。

特に工業とかはアンケートの中でも興味があると思うので。じゃあ工業地帯はどうやって成り立ってきたのだとか、もしかしたら経済かもしれないですし、その「まち」においての特色をしっかりと掘り下げた年表みたいなのがあるっていうのは確かに面白いと思います。

高田委員

もう一つ、「行きたくなる場所、川崎」をめざしたいので、本に追加して動画コンテンツも作成する場合は、この時期はお正月の川崎七福神巡りをお薦めするなど、タイミングも重要ではないでしょうか。

事務局（片岡）

ありがとうございます。そしたら、ちょっと、「△」より「×」（バツ）のところにいきたいと思うのですが、それでは最初に望月さん。お願いいたします。

望月委員

年表はいろんな本についているのですが、そもそも年表に書かれていることの信憑性に疑問を持っていて、そのまま見ないっていうかたちですね。例えば、ここに出ている年表の中でも、これは本当にこの年なのか、月まで書いてあるのですが、非常に曖昧な部分が多いかなというところで、そんなに見ないです。ただ、本文を読んでいて、興味があるところがあれば、繰り返してちょっと確認をすることはありますね。

なので、あくまでもこの2つの参考例で出していただいていますけども、最初のやつ（『かわさき 2014』の年表）は非常に長い期間を大雑把にバツと書いていて、逆にもう一つの方（『カワサキノコト』の年表）は、短い期間の中をかなり細かく書きすぎているから、先ほどの意見でも「いろんなものが入り込んでいて、全然わからない」ということがありましたけれども、編集した時にはとにかく詰め込もうよということで、多分これができちゃったのではないかなと思います。

だから、ここら辺が、編集側がどこまで（情報を）載せるかっていうところだと思います。先ほどもちょっと話があったのですが、年表をやるのであれば、やっぱり目次にリンクさせたほうが良いのかなと。で、今回その案を見させていただいて、「いつだって川崎は」ということで、かなりテーマが広範囲にわたっている。この広

範囲にわたっているテーマの中身が年表のどこに当たるのか。だから、この大きなものと、「写真の E ですよ」とか「C ですよ」に当たるような形で、「本文のどこそこにそのことが書かれていますよ」っていうことが少し示されていると、「このページ読めば良いのか」というお互いにリンクする部分も出てくるのかなと、先ほど色々とお話を聞いている中での感じたところです。

事務局（片岡）

ありがとうございます。それって結局、年表ってどうしても全部入れるのは難しいんですけど、結局、ある程度かいつまんで情報として載せた結果、こうなってしまうというところで、悪く言うと、読ませる気がそんなに強くないというふうになってしまっているところが、多分ネガティブに捉えれば、そうことなのかなと思っています。

望月さんがおっしゃっていたように、例えば、目次とリンクさせていくと、先ほどから意見に上がっている（年表に）自分が興味のあるコンテンツから、入り口としてこのツールを使って、もしかしたらより深く知ったことによって（違うと思ったものが）分かってくるみたいな。（年表を）一つの入口として使っていけると良いじゃないかっていうようなイメージでしょうか。

そういえば昔覚えた年号が、今は全然変わっているらしいですね。それも一つ、こういうところから興味を持った人が発見したのかもしれないです。大変参考になります。ありがとうございます。

次は、鈴木さんから、いただいてもよろしいでしょうか。

鈴木（勇）委員

年表の使い方としては、「これっていつからあるのかな？」というのを確かめたりすると、例えばこの辺り、武蔵小杉であれば東横線と南武線のどちらが先にできたのかなと（思ったら）、このページを見ると、大正 15 年に東横線、昭和 2 年に南武線が相次いでこの時に開通している。じゃあそれより前はどうだったのかなと。今は便利だけれど、全然そういう便利さはなかったのかなと思ったりするわけですね。

もう一つですね、何かが出来たっていうのはわりあい分かりやすいんですけど、こう見ていると結構謎の項目があって、（『カワサキノコト』）75 ページ目 1 番左、「昭和 26 年 6 月 市が川崎港の港湾管理者になる」のがあるんですけど、それだけにしていても、見せられても分からないわけですね。でも、おそらく書いた方には何らかの意図があって、多分、行政的には重要なんでしょうけど。一般の方にあんまり興味がないと思います。でも先ほど望月さんがおっしゃったように、これだけ見ると「なんのことか」と思うのですけれども、中身とリンクさせると、「なるほど、こういう

ことだったのか」と分かることもあると思うので、やっぱりその辺り、ある程度年表と中身を連動させたほうが良いのかと思いました。

事務局（片岡）

確かにそうですね。僕も今ふと思い出しました。年表を見て、「これって結局何なのだっけ」とか分からないことがありますね。

鈴木（勇）委員

何かができたというのはまだ分かりやすいのですけれども、「赤穂浪士、大石内蔵助らが滞在する」とか。だから、なぜこれを採用しているのかとか。それぞれ意味があるはずなのですから。

事務局（片岡）

確かにそうですね。ただ書くだけって年表であればいいよねという話ですね。そこにどんな意味があって、どうなのかっていうふうを書くことによって初めて歴史っていうものが活きはじめるっていう意味合いですね。

ちなみに、なんでこれを書いたのか理由がありますか。

事務局（堀切）

港湾管理者になったのは、政令指定都市になった時ですね。それ以前はおそらく神奈川県が港湾管理者だったわけですね。そこで実は色々道路管理者とか、諸々、政令指定都市として自治体として管理できるものが大きく変わった時代なのです。すいません。私、以前に港湾局にいましたので、付け加えさせていただきました。

事務局（片岡）

多分そういうことが知りたいのだと思うのですよ。それを全部書き始めたら、とんでもない分量になってしまうので。何とかそれを読みやすく、分かりやすく、さっきの漫画の歴史じゃないですけど、分かりやすくしていくかってところが、川崎をより知ってもらって、好きになってもらうきっかけになるのかもしれないです。

ありがとうございます。では、落合さん、いかがでしょうか。

落合委員

言われてしまったのですが、本文に連動させるのは良いなと、思いました。

それから、年表を書くときはやっぱり「なんでこれを扱うのか」というのは必要です。例えば（『かわさき 2014』に記載のある）「横浜製糖（明治製糖）が設立する。」っていうものがあると、なんで横浜製糖を取り上げて、富士通を取り上げないのか、ということが出てくるので、やっぱりそれぞれの項目を取り上げる意味を考えながらやっていかないと、不公平が出るのではないのでしょうか。

それから、現在に関わるようなことで、例えば国道 246 号は大山街道が元々始まり

で、みんな大山の参詣に行くって言うことが、元々人々が行き交う道ができて、それが国道 246 号ということになって、今はもう整備されてちょっと場所が変わってきますけれども。やっぱりそういう今に繋がるようなところを含めながら、こういう問題も意識付けして取り上げられたら良いなと思っています。

あとそれから、日本の歴史の部分が僕の中ではちょっと適当に当てはめているという印象があって。例えば小泉次大夫が二ヶ領用水を開削するという川崎の歴史ということを考えて時に、それよりもやっぱり徳川家康が関東に入ってきて、江戸を整備したりして、その中で川崎も二ヶ領用水を整備しようというふうになったのですね。

やっぱりそういう川崎の歴史に関わるようなところで日本の歴史を整理してやっていったほうが良いのではないかというような気がして、眺めていました。

それで、もうおっしゃられたことではありますけれど、私自身はやっぱり年表は参考までに見ていますので、「箕輪亥作、佐助が『ミノル式足踏み脱穀機』を作る」って書いてあるけど、「箕輪亥作」ってどういう人なのだろう？と、もっと深掘りをしたい時に、本文を見たら、ここに書いてあるみたいな感じですね。やっぱり、そういう本文との連動があったら良いなというふうに思って見ていました。

あと、先ほどおっしゃられたように、テーマの部分は、福岡市史の方でも、交通の年表ができていたように、結構集中的にあるようなものは、そちらのほうに載せちゃったのが良いのかな。そういう代表的なものだけをこちらの年表（全体の年表）に載せて、いっぱいこちに載せるっていうわけではなくて、分類でやる部分は分類（先のページ）に載せる方が良いような気もしました。以上です。

事務局（片岡）

ありがとうございます。確かにそうです。

今すごく面白いなと思ったのは、日本の歴史に紐づけていう話が上がったと思うのですが、それは絶対そうですよね。日本の歴史（のここ）があったから、（川崎）市の歴史にのここに紐づく。世界的に「こうだったから、こうなった」とかというところが本当は紐づくはずですけど、多分それが紐づかないということになると、先ほど鈴木さんがおっしゃっていただいたように、結局、なんでそれがあるのみたいなことになって、深掘りできずに終わってしまう年表は決して興味がそそられるものではないと思ったりします。そのあたりの紐付けはすごく難しいと思えますけど、ぜひそこらへんは作る側（が意識しながら作ってほしいです）。

嶋田委員

ちょっといいですか。その紐付けでいくと、『かわさき 2014』の「二ヶ領用水が完成する。」の 1611 年ですけど。用水路を整備したことによって、川崎が米どころ

になるのですよね。稲城米がすごく作られるようになって、江戸に献上されて、江戸前寿司って、お魚は江戸前で取れたのものだけど、米は稲毛米だったらいいのです。

この（『カワサキノコト』の）「赤穂浪士の大石内蔵助らが下平間村に滞在する。」というのも、軽部五兵衛さんっていう庄屋さんがいて、浅野家と取引をしていて、浅野家にまぐさ（馬草・馬の餌のこと。）を、向こうから、下肥、つまり堆肥を仕入れてきて、川崎まで運んで、農業をやっていたというのがあったのです。赤穂藩が取り潰しになった時に、家財道具とか運ぶのを下平間の軽部さんが手伝って、赤穂浪士をここにかくまったっていう歴史があるのです。浅野家との繋がりというのは、やっぱりその循環型の農業、江戸で要は武士の人が良いものを食べて、良い肥やしが取れて、それを川崎に持ってきて農業やったという循環型の農業とも関わってくるのですよ。

なので、用語だけ並べるとほんとわかんないのですが、その裏側に何があったのかっていうところまで書くと、特に江戸との繋がり大きいので、川崎の立ち位置みたいなものが見えてくると思います。

事務局（片岡）

確かにそれはそうですね。なんか多分それがもしかしたら、工業のほうにもそうなっていくと思うので、そういったより掘り下げっていうのは興味を沸かせるのに大変貴重なものかなと思うので、どこまで書くのもあれですけど、ぜひ参考にさせていただきたいです。

嶋田委員

だから、その歴史の年表をダーッと書くことが良いのか、何かそこから川崎の本当のアイデンティティみたいなものが見えてくる方が良いじゃないのかなって気もしますけどね。

事務局（片岡）

ありがとうございます。ちょっとそこは参考にしていきつつ、じゃあ最後、阿久津さん、いかがでしょうか。

阿久津委員

色々出て、すごい勉強になるなと思いながら聞かせていただいていたいました。私は年表を今出てきているところを見ていて、年代ごとに色分けがされていると見やすいと思いました。

事務局（片岡）

年代ごとに色分けされていると見やすいっていうのは、やっぱり自分の興味がある年代とかがあっていうところで見やすいという感じですか。

阿久津委員

自分が生まれた時とか、親が生まれた時に一体どうだったのだろうかそんなところから深掘りしていくのも良いかなと思って。年表って、細かい文字がたくさん載っているんで、ぱっと見てすぐに年代が分かると見やすいのかなと思います。

事務局（片岡）

なるほどですね。やっぱりそれも、最初の入口は、やっぱり自分事として興味があるものから入っていきやすいというところですね。ありがとうございます。

こうなってくると、まずキーワードとして大きく出てくるのは、自分事として自分についてとか、自分にマッチしているとかってところが全体的に多いですね。あとは、紐付きになってくる、コンテンツごととか、ある程度分類をしっかりと分ける、カテゴリ化して見せる年表というところですね。

あと、それを踏まえた上でビジュアルライズをちゃんとしていくってところですかね。

あと、結構個人的に気になるのは、川崎の中だけではなくて、ちゃんと外との連動性があることによって、やっぱり川崎の本当の部分が見えてくるころかなと思うのですが、実際にどんなコンテンツとか、どういうふうなものが載っていると良いのか。先ほど望月さんなどもおっしゃったように、目次としっかりリンクさせていくことが大事というところだと思うので、目次はその前提でいくと、ただただ索引目的の電話帳の目次とは違って、ちゃんと意味のある目次であるのが大事だと思います。

（次第一3） 目次案についての意見交換

事務局（片岡）

（前提が）1回揃ってこれを踏まえた上で、よりこうやっていくと年表も含めて、より読んでいきたいとか、より興味が湧くものになるじゃないかというところの部分、ダメ出しではなく、よりこうやったら良いじゃないかっていうようなところで、ご意見をいただけたらすると良いなと思うのですけれども。

そうしましたら、ここはマルバツをいただくわけではないので、それでは望月さんからいただいてもよろしいでしょうか。

望月委員

全部見ているわけじゃなかったんで申し訳ないですけども、例えばこのコンテンツで出てきているそれぞれの項目の中身がどういう形になってくるかによって、どう目次に反映させてくるかだと思うのですよ。

ですから、先ほど鉄道の話で南武線と東横線の話が出てきましたけど、それが例えば（目次案）86 ページの交通のところに話題として出てくるのか出てこないのか。出てくるのであれば、その東横線だと（年表側に）「86 ページ（参照）」と入れておけば、「より詳しく見たい人はそっちの 86 ページを見てください」という話になってくるんじゃないかと思います。ですので、今ここで出ている項目以外でまた云々っていうのは、ちょっと考えがまとまってないのであれですけども。私が先ほど話したニュアンスとしては工場のことだったら、（目次案）72 ページの工場のところでどのくらいのものが入ってくるかとか、そういうところとリンクさせながら、年表の方も項目だてがいくつかできてくるのですよね。そこから漏れちゃったもう少し細かいデータっていうのは、先ほどの意見でありましたけど、その項目のページの中に圧縮した年表をさらに載せるっていうことも一つの手なのかなと思います。

事務局（片岡）

僕が編集するわけじゃないので、勝手にアイデアを増やして申し訳ないですけど、斬新だとちょっと思ったのが、年表を目次にしているパターンってあるのですか。

聞いたことないですよ。どっちかっていうと目次はそこのご案内の全体マップであって。より掘り下げたいとか、より知りたい人のために、年表みたいなものが（用意されている）。今日の意見の中ですごく面白いなと思ったのは、目次も年表も言ってしまうと読み物であるってところなのかなと思っていて、その興味が湧いていて、掘り下げたい人は目次の要素を持っている年表を踏まえてより掘り下げていくと「この雑誌って面白く読めるよ」みたいなご案内になってくるのかなと思いました。

ありがとうございます。ちょっとそれは編集さんも（検討してください）。

事務局（渡部）

今、目次を見ていただいて、川崎らしいコンテンツってどういうものを入れたら良いのかなと。一応アンケートなどを反映して川崎らしいというものを入れてはいるのですが、何かもうちょっとこういうものを入れると川崎らしいとか、そういうアイデアをいただけたらなと思っております。

大城委員

私は子どもと活動しているからというのもあるのですが、子どもの権利条例は川崎市が初めてできて、全国に誇るもので、視察も相次いでいます。でもすごく思っている割には、あんまり子どもってフォーカスされないのかな。100 年としたら、そうか、最近の 20 年の話なのかなとったりしたのです。

それを皮切りに考えていくと、中原区役所の前とかにも、「川崎は何々の街」って、なにか標識みたいのがいっぱいありますね。「緑の街」とか、「平和の街」とか、

「音楽の街」とかありますよね。あれって多分、今、川崎市の市制 100 年の中の多分 2、30 年のことかもしれないのですが、新たに引っ越してきてこれから暮らそうとしている人にとっては結構それ重要なポイントだったりするのです。歴史っていうと、やっぱり昭和の戦争っていうのもすごく大事、成り立ちも大事なんだけど、これからのところがちょっと（入れた方が良くと思います）。

事務局（渡部）

そうですね。例えば、その 100 年にくくってしまうと扱うテーマが限られてしまうので、逆にそこは無理に歴史の浅いものであっても、変遷があるものに関しては川崎らしいっていうのは入れても良いと思います。

大城委員

子どもの権利条例は全国的に結構きちんと見られているって私は思う。あとですね、外国人との繋がりっていうのですか、韓国系の方もすごく多くて、困っていたりする面もあるじゃないですか。それが出てこないなって思います。

あと工業の歴史ってまとまっているのだけど、それこそ富士通さんみたいなのがあそこにドーンってあるってすごく大きな話で。南武線って工業ラインだってイメージがすごくあるけど、それがどこら辺で読めるかなって思っています。

この 3 つが今気になりながら思っていたので、ちょうど忘れないうちにつぶやいてみました。

事務局（浅井）

そのテーマでいくと、本日ご欠席の反町様と鈴木ひでちか様からコメントをメールでいただいているので代読します。

まず反町様からです。

「アンケート結果が興味深く、エンタメや便利な交通機関が高ポイントだった点は納得もして嬉しいです。商業施設もたくさんありますし、地元商店街でなんでも揃うというのが自分の小さい頃からの自慢でした。エンタメが上位にくる点も、とても嬉しく、川崎ハロウィンや、アジア交流音楽祭化や川崎ジャズといったものをぜひ取り上げてほしいです。エンタメは人やまちに活力を与えるので、大切にしてほしい。また、もう一つ、食をぜひ取り上げてほしい。ニュータンタン麺などを歴史とともに入れてもらえたら嬉しいです。」

以上を反町様からいただきました。

つづいて、鈴木ひでちか様からは、

「読んでみたい話題で、カルチャーやアートが上位に上がっているのですが、やっぱりこの本は歴史の本なので、テーマを「線」で捉える必要があるかと思います。

一過性のブームにとらわれずに、線として描けられるようなテーマ選定が必要かと思っています。」

以上です。

それで、鈴木様からは「来年もよろしくお願いしわす（師走）」とのことでした。

事務局（片岡）

そうですね。今おっしゃっていた、「何々の街」は川崎にはすごく多いと思うのですが、そこが歴史としては浅いものと深いものがあると思うのですが、そこをしっかりとフォーカスして、そこに絡んでいる人たちも読みたいと思ってもらえるようなコンテンツを入れる必要があると思います。すみません途中で話を切っちゃっていますけど望月さん、お願いします。

望月委員

今、細かいようで大雑把なコンテンツになっていると思うので、もう少し交通整理というか、中身の中で整理が必要になってくるのかなという気はしているのですよ。

多分このコンテンツでいくと漏れちゃうものがたくさん出てくる。その部分をどうやって（補って）いくのかというふうに思っていますので。例えば交通の面でも、道もあれば水上交通もありますし、様々な交通の切り口がありますので、横の交通もあれば縦の交通もありますし、道も複雑に走っているところがありますし、宿場も、川崎に限らず、小杉（宿）もあったり、溝口（宿）、二子（宿）もあったりしているわけなので。

そういった細かいところをどういうふうに拾いながらこのコンテンツをまとめ上げていくかっていうところは、非常に大変なところじゃないかという気がするのです。

事務局（片岡）

そうですね。伺っていて全部乗っけきれないぐらいの情報があるかなと思って、本当に何が伝えたかったかのところも分かんなくなってくるかなと思った時に、私の中で、それをどうやって選定していくのかというところも一つ考えなきゃいけないのかな。そのヒントがやっぱり「川崎らしさ」。川崎の市史として何を載っているか、「川崎だから載っているよね」ところに紐づいてくる、取捨選択しやすくなってくるかなと思うので、多分今日ここから出てくるその川崎らしさみたいなところが、より掘り下げるべき、川崎の市史に紐づくのかなと思いました。

ありがとうございます。福森さん、いかがでしょうか。

福森委員

さっき大城さんがおっしゃって、やっぱり嶋田さんもおっしゃっていたように、川

崎の誇り、シビックプライドをくすぐるようなコンテンツだと良いなと思います。

子どもの権利条例とか、外国人市民代表者会議だとか、川崎が先駆的に始めたり、その前も、公務員の国籍条項を撤廃したりとか、割と先駆的な取り組みをしていて、公害の街を克服したりとか。市民活動の側面から言うと、社会の暗い部分を取りかかる活動なので、課題解決のために。

そういう暗部というか、裏川崎じゃないけど、そういう歴史やコンテンツも一部ではあると良いのかなと思いました。なんであそこに平和公園があると言ったら、(戦後は)米軍に接収されていたところとか。ヒップホップが川崎区で発展していて盛んなのはなぜかという、差別とかに苦しんでいる人たちがいたりするという背景の部分もちょっと取り上げると、深みが増すし、ある意味、今それを克服して、未来に向かって、前向きに進んでいるという川崎の誇りに繋がるところもあります。ネガティブな要素になっちゃうかもしれないですけど。そういうものがあると良いかなと思いました。

事務局 (片岡)

裏川崎ということですか。でも、ヒップホップは、確か若者の文化をずっと応援するところを、表にはほんと応援しなかったけど、規制をかけずにやんわりと下支えをし続けた結果が、今回の溝ノ口のAMIさんが誕生したというストーリーになっているし。川崎としては、まさに公害もそうですし、治安とかそういったところも良くないというところから、徐々にいろんなことを裏でやり続けたことによって、今治安としては良くなりました。これで今アンケートから1個引っ張ってくると、前に取ったアンケートに、年代が上の人ほど川崎って治安が悪いというイメージが強いのですよね。10代とかの人たちは、意外と川崎に対して治安が悪いというイメージを持ってなかったというところがありますので、それは徐々に取り組みが浸透した結果と捉えられるのかなと思うので、まさに裏川崎という、あんまり行政がそういうのをやらないですけど、川崎らしさで言うと、そういったところを取り上げるのも一つ面白いことと思ったりしました。

ぜひ(編集側は)検討をお願いします。ありがとうございます。

そうしたら、まさにちょっと若者のところに繋がっていますので、羽賀さん、お願いします。

羽賀委員

すごく難しいですけど、私が川崎らしさを考えた時に、やっぱりすごい「人」が大事ななと思って、しかも、その人がどういうふうに住んでいて、今の活動をしているかとかにやっぱりすごく興味があると思うので、この(目次案の項目)4番目にある、

「わた史」と「テーマ史」が連動するようなものができたら、読んでいても面白いかなと思いました。

事務局（片岡）

川崎が人を大事にしているというところは、どういったことでしょうか。川崎が人を大事にしてくれているのか、川崎らしさで言うとどういったところ（かを伺いたいです）。

羽賀委員

単純にいろんな人がいるという多様性の部分とか。あとはまちづくり活動をやっていると思うのは、すごくエネルギッシュな方が多くて、「これやりたいな」（と思った時に）、「じゃあ、この人に繋げるね」みたいな、ハブとなってくれている人がいろんな分野で、かついろんな地域やエリアにいるという感じですね。

事務局（片岡）

なるほど、それ面白いですね。またデータを出しちゃって恐縮ですけど、シビックプライドを毎年末の11月から12月に測っていて、そこでも1番に出てくるのは「便利」ですね。交通の便が良いとかなんですけど上位は意外と「活気」なのですよ。

それはまさにさっきの工業とか、裏の川崎とか、いろんな多様性を認め合っているから、意外とアグレッシブな人が多かったりとか、若者の流入も多かったりして、そういった両側面を持ったまちなのかなと思うので。人にフォーカスして、ただ人をインタビューして終わりではなくて、ちゃんとそれが川崎における歴史とか、コンテンツとかのところに、何に紐づいているのか。さっきの日本と川崎から、さらに川崎から人みたいなのところの紐付きがあったりすると、より自分事として面白いかなと伺いながら思いました。ありがとうございます。にしにし家さんお願いします。

にしにし家委員

まず、目次としてこれをパッと見た時にも私としては割と見やすいなと思って、色分けとか良いなと思っています。案としては、音楽とかカルチャーとか映画とかの分類が出てきているので、そのテーマごとのアイコンとかあっても良いですし、多分絵とか、あと、テーマとして食が欲しいっていう意見があったと思うのですが、私もグルメのほうはまさに欲しいなと思いました。

あと、ちょっと気になった項目があって、（目次案）174ページの「楽しく読める川崎クロニクル」のところに「家族のできごとが書き込めるメモ欄付き」というのがあって、こういう冊子でメモ欄があっても書いたことないなって、そういうのを書いている人は見たことないなと思ったので、必要なかと思っちゃったのと。

あと、川崎らしさっていうところで、やっぱり「便利」っていうのがあるという話だったと思うのですが、それすごい興味あるのですよ。他のまちと比べて、その便利度っていうのを何かしらデータで示せないかが欲しくて。例えば、この町はバスが何本だけど、川崎だったら「これぐらいあるから、これぐらい便利だよ」みたいな。「その駅から1番遠いところでも何分なので、駅まで歩けるよ」とか。

その便利度を数値化して、他のまちと比べて川崎が1位になるランキングを作って、比較して、1位になって気分が良くなりたいです。このデータだと川崎は「便利の1位です」みたいなっていうのが面白いなと思います。やっぱりテレビ番組とかで、「月曜から夜ふかし」とか結構いろんなまちを、実際は対立なんて無いのにテレビ的にそれを作って競わせてっていう。一種の遊びだと思うのですが、そういうのが楽しいなって思っていて、川崎市とどっかのまちと対抗して川崎市が1位になるランキングを、みたいな川崎が勝つ内容で作ってほしい。

あと区ごとのランキングもちょっと見てみたいなと思ったのですね。川崎区が大体強いのは、なんとなく川崎区が多分何かしらのデータで強いと思うのですが。そこに私のいる多摩区が何かで勝っているのかなっていうのは、(中略)緑地面積だそうです。結構その区ごとに絶対みんな何かしらの区に属していると思うので、そのランキングとかは割と楽しいじゃないかなって思います。

事務局 (片岡)

確かに、そこで言うと、目次の中のプラスコンテンツみたいな話で言うと、多分ランキングってやっぱり日本人は特に好きなコンテンツと言われていて、そういうのも一つ追加されていたりすると、例えば今言った川崎の便利さを数値化みたいところで、それを歴史とともにどのタイミングでどう便利になっていったのかみたいな、それを数値化できるのかあれですけど、それを年表とも絡めさせたりとかすると、川崎の歴史も分かるし、なんでそれが変わっていったのかも分かると思うので、それはすごく面白いなと思いました。ありがとうございます。中村さんお願いいたします。

中村委員

私もぱっと見ると面白いタイトルとか読みやすいなって1枚目は思っていて。2枚目はまだ読み込めてないので、よくわからないのですが。

特に旧石器とか、なんでその辺から来ているのかなとか、よく分かりません。まだこの174ページとかのもまだ全然よく分からないのですが。なんかさっきの川崎らしいコンテンツで言うと、1番初めの、前回の話の時もあったのですが、その、無形民族文化財とかのが、こういうところ、歴史と、各区であれば、私の前言った獅子舞とかのお話のルーツとかを紹介できたらいいなと(思うと)ともに。常にその紹介

するページにどうやったら、例えば音楽もそうですけど、どこに行ったらこの音楽に触れられるかを書かないと。ただ紹介するだけの本じゃなくて、この街に歩きに行くきっかけになるようなものにしてもらえると嬉しいなって思います。川崎ジャズだったら、何月何日までは言わなくてもいいですけど、ここに行くに触れられるとか、足を運べるきっかけになるような情報があると良いなど。

さっきも皆さんが言った通り、すごい勉強にもなるのですが、ざっとした年表ではなく、各分野の年表が（ページの）右下とかにあるのか、逆に、お出かけ情報って必ず右下に、川崎の例えば音楽だったらお出かけ情報とか、映画だったらこの情報とあっていう、しんゆり映画祭がこの辺であるとか、そういうお出かけができるような情報が欲しいなと思います。

あともう1個は、私、川崎らしいかどうかわからないので、皆さんに逆に聞きたいのですが、なんか今、友好都市の（韓国の）富川市とちょっとやり取りをしていて、今度、新百合ヶ丘で富川市の人に来て、音楽をやってもらうのですが、私は10年前に来たので、友好都市がなんでできて、なんで今も交流しているか全くわからなくて、何回聞いてもよくわかんないんですけど。でも友好都市になる理由とかきくとあると思うのです。ここ（目次）に友好都市が入ってないのですが、あんまりそんなに大事ではないかもしれないですが、私とその友好都市って、外から見た、外と川崎との繋がりが友好都市から繋がって、何かこう関係性を示しているじゃないかなと思いつつも、誰からも富川市の説明を全然してくれないのです。私はずっと川崎の新百合の音楽の団体さんと（活動していて）、富川市の子が今度来るのですが、例えば友好都市といっても、友好都市になっていることは知っているのですが、ミュージアムとかに行くと、マップとかもあるので、どのぐらい皆さん知っている、住んでいる方たちが重要視しているのか、皆さん逆に教えていただきたいなと思っているのですけど。鈴木先生とか（ご存じですか）。

鈴木（勇）委員

わからないですね。すいません。

望月委員

漫画で1回なんか交流をして、阿部（前）市長が富川市に行ったりはしていましたよね。アニメや漫画か。

中村委員

先月もなんか富川市の方がいらっしゃって、福田市長のところに報告されているらしいのですけど。

高田委員

(Web ページで調べたところ) 上下関係の問題が生じるから、姉妹都市という言い方を、友好都市という言葉を用いられることがあります、とされていますね。

中村委員

せっかくの関係を説明するであれば、ここを使った方が良いかなと思うし、そんなに重要じゃなかったら、まあいらないかなと思っているのですが、川崎の歴史の中で、私に1回も説明してもらったことがなくて、誰か説明がしてくれるなら、嬉しいな(と思います)。

事務局(片岡)

そういった疑問を解いてくれるのが多分市なのだと思います。

富川は何にもわからないのですが、確か沖縄と友好都市じゃないですか。あれは結局、工業が盛んになった時期にこちらに移ってこられて、結果的にその人たちが定着していたりとかっていうところだと、やっぱり歴史とめっちゃくっちゃ紐づくと思うのですね。

富川がどこまで紐づくかは私も全く存じ上げないのですが、なんかそういったところを一つ紐解くヒントみたいな、知る要素としてあったら面白いですね。

中村委員

あったら面白いと気がします。外から見るとってところのキーワードとして、友好都市、姉妹都市になっているならば、使ってもらいたいし。

でも私にはまだわからないので、分かりやすく言ったださる方がもしいたら、私は実は知りたいのですよ。せっかくこうなったっていうのを知りたいのに、なんか誰も説明してくれないです。

鈴木(勇)委員

瀋秀園という立派な公園が大師にありますけれども、瀋陽と友好都市とのいうことで作っているわけですが、じゃあなんでこれ瀋陽なのか、本当にわかりませんよね。

事務局(片岡)

いや、確かに今言われたら今めっちゃくちゃ知りたいです。確かに友好都市というぐらいなのだから、もうちょっとそのことをしっかりと教えてよっていうのは、それはそうですよ。

中村委員

でも、ただ国だけ来ていて、一切の背景とかなんも言ったださらなくて、せっかくの外との関係性でいうなら、これを使って、私にぜひ分かりやすくしてもらえ

と、子どもにも説明しやすいと思います。本当に、今度2月に来るのに、なんで富川の方が来て歌を一緒に歌うのだろう。

事務局（渡部）

さっきちょっとお出かけ情報ってあったじゃないですか。一応今考えているのがそのページの後半の方、地図で感じる歩きたくなる川崎市っていうところで、ちょっと地図を使って実際に出かけてみようという感じのページを考えてはいるのですが、今、中村さんがおっしゃっていた感じだと、1冊通じて多分こういう出かける要素を盛り込みたいですか。

中村委員

そうですね。せっかくだったら各テーマ、例えば工業とかでもなんかあるんじゃないかなと思いました。

事務局（渡部）

なるほど。分かりました。

中村委員

すいません。結果何も言ってないのですが、なんか皆さんに教えてください（としか話せなかったです）。

事務局（片岡）

でも、ありがとうございます。そこは一つ読み物として面白いヒントなのかなと思うので、ぜひ検討いただきたいです。ありがとうございます。竹内さん、お願いいたします。

竹内委員

いくつかありますけども、一つがデータなのですが、データ編ではなく独立させて載せたほうが良いと思うものがあります。それは人口重心です。日本の人口重心は岐阜県のどこかにあるのですが、だんだん東に移っているというデータがあります。それで、川崎の場合は、川崎区は50年前と人口がほとんど変わってないのです。当時は最大人口の区だったと思います。しかし、今は中原区が1番。川崎区と多摩区とか宮前区とか高津区とかが大体同じ人口なのです。中部・北部の開発がどんどん進んで、人口が増えているのです。これを、人口重心で表すと、最初は多分川崎区か幸区に人口重心があったのが、だんだん中原区など中部に移っていると思います。人口重心が南部から中部に移動している様子を一つの地図で表すと、川崎のこの100年のダイナミズムが非常によく分かると思っています。これを、付随情動的なデータ編ではなくて、100年を語るメインのコンテンツの中に載せると、川崎の100年のイメージが掴みやすいかなというのが1つ目ですね。

それから2つ目が、川崎ってやはり水がキーワードです。先ほども二ヶ領用水の話がありましたし、ここ（目次案）の中にも多摩川の話はあります。加えて、市ができる歴史には水の供給が関わっていると聞いています。多摩川は暴れ川なので、江戸時代を通じて、流域がすごく変化しているのです。だから、今でも東京側に川崎の（江戸期の）領地が何か所かあるのですね。あれは川の変遷の名残だし、東京にも川崎にも同じ地名が残っているとありますよね。だから、この流域の変化とか、地名とか、「東京側にも川崎地域がある」というのをコンテンツとして見せると非常に面白いかなと思います。

ひょっとすると、この（目次案）36ページの多摩川とか、138ページの川崎の地形の項目があるので、そこに書かれるのかなと思うのですが、特に同じ地名だと東京側に川崎市があるのだと知らない人が多いので、これは結構面白いコンテンツなんじゃないかな。それが2つ目ですね。

それから3つ目は、先ほどおっしゃった方がおられましたけど、戦争のことは大事だと思います。昭和20年4月に川崎大空襲があって、川崎区のほとんどと幸区、それに南武線沿いの工場ですね、武蔵小杉ぐらいまで空襲にあっているのです。このことを、しっかりこの市史記念版の中に書いていくのかなと。あと、登戸研究所っていうのは、これは載せるか載せないかは判断があると思いますけど。

4つ目ですが、縄文時代は長いので、その間に気候変動が何度もあって、海岸線がすごく動いています。それも（目次案）138ページに書かれているかもしれないですけど、例えば縄文時代の一時期に、川崎区とか幸区はほとんど海だったりしているわけですね。海岸線が、どんどん内陸に入っていったり、逆に戻っていったりっていうのが、いわゆる気候変動の話なので、現在の地球温暖化とも結びつきますから。そこを結び付けて何かコンテンツにすると、子どもが読んでも過去の話ではなく現在の身近な問題と分かる。他にもいっぱいあるので、時間なのでここでやめときます。

事務局（片岡）

確かに（目次案）68ページの環境とかも、ただ環境を良くしようではなくて、やっばそういったところから紐づくと興味が深いところに行くと思います。ありがとうございます。高田さん、お願いします。

高田委員

企業の場合は、沿革として何々期、何々期と分類し成長過程を見せ続ける必要があります。

川崎市も、成長している過程をナラティブ（物語）に伝えることができればと思い

ます。

事務局（片岡）

ありがとうございます。でもまさにこれは多分、年表と紐付けることとか、一般的にちゃんと読ませるために企業を色々考えてきたことだと思うので、そういったところをしっかりとアピールできる市史にしていくのは一つ大事なところだと思います。

続いて鈴木さん、お願いします。

鈴木（勇）委員

こういう形で、テーマごとにテーマ史を設定して叙述していくというのは、読んでもらうためには非常に重要なことだと思うのですね。

ただ一方で、何人かの方がおっしゃっていましたが、やっぱり歴史にしてみる場合は、どう変わってきたのか、どういうふうな変動があったのかっていう。先ほど「線」と言われた方がおられましたけれども、やはり歴史の中で、時間軸の中でどう変遷してきたのかっていうのも結構重要だと思うのです。

そうすると、今回意外にもこの年表は重要じゃないかなと、今のお話を聞いていてちょっと思ったのですね。

それが一つで、こういうテーマの中で、川崎らしさはいくつもあると思うのですけれど。例えば「なんとかの川崎」、「何々のまち川崎」というのは、これはこう見てもらいたい川崎で、ただ一方ではどう見られてきたのかという川崎もあると思うのですよね。

で、先ほど世代間によってかなり川崎イメージに差があるという話がありましたけれども、この川崎のイメージがどう変わってきていたのかを追うことで、ある意味川崎らしさが出てくるのではないかなと思いました。以上です。

事務局（片岡）

ありがとうございます。「何々の川崎」はこう見られたいですね。どう見られてきたのかがあってもすごく面白いですね。続いて、嶋田さん、お願いします。

嶋田委員

ちょっとなんか話がよくわからなくなってしまった部分もあるのですが。

そもそも論で、前回ペルソナの話をしたと思うのですが、そのペルソナはどこ行っちゃったのかが思っているところです。すごく百花繚乱になっていて、それは多分アンケートの設問とその結果に紐づいて、今ここに上がっている項目もアンケート結果に寄っているじゃないですか。

だから、結局ペルソナとかの話じゃなくて、百花繚乱、色々なんでも乗っかっちゃっているんで、見えなくなっているかなという気がしています。

福岡の市史を見ると、完全に小学3年生向け、4年生向け、5年生向けという項目立てになっているので、その切り口と見せ方が分かりやすいと思いました。

いろんな事情で、いろんなことを乗っけなくちゃいけないということになっているかもしれないのですが、ちょっと広いけど浅いかなという感じがしています。

それで、皆さんの話でいくつ面白いところがあって、福森さんがおっしゃっていた、そのダークなところですね。僕なんか外から来た人間なので、元々「川崎病」というのは川崎の風土病かと思っていたぐらいなので。あれは川崎の風土病じゃなくて、川崎博士という先生が発見したから川崎病で、僕は、なんか喘息が川崎病だと思っていたのですよね。だから違ったっていうところがあったりします。

僕なんか、1988年に川崎に西武（百貨店）がオープンした時の広告が「川崎事件」っていうやつで。TCC（東京コピーライターズクラブ）で賞をとっているやつ（キャッチコピー）があって、そのぐらいなんか川崎ってスキャンダラスなところに昔は思っていたのですが。それからだいぶ変わってしまいましたけど。

そのラップとか、EXILEのまつさん（松本利夫さん）が出てきたりみたいなのところも、なにか川崎のヤンキー文化みたいなのところがベースになっているのかなというのは思うので。そこのところをうまく表現できたら、「裏」というか、かっこ良いだけじゃなくて、もう少し深みや毒が入れられるのではないかなと思いました。

あともう一つ、僕は外から来た人間で、今川崎に住んでいてすごいと思うのは、川崎の地名ですよね。川崎の町名とか、昔からずっと残っているのです。江戸時代に、今から200年前に書かれた『新編武蔵風土記稿』を見ても、今の地名がそこに載っていることがあって。ここの土地はこういうことがあった、というのは全部載っているのですね。もっと戻ると、古墳時代とかそのぐらいの頃からずっと土地の名前が残っている。むしろ漢字がくっついていて、分からなくなっているのですが。それは漢字が当て字なので。うちの近くの幸区の周辺だと「か」がつくところが「加瀬（かせ）」とか「鹿島田（かしまだ）」とか、「か」がつくところが多いですし。「や」がつくところも多いですね。「矢上（やがみ）」、「矢向（やこう）」、多摩川を渡って、「矢口（やぐち）」とか「谷戸（やと）」とか。じゃあなんでその「や」がつくのだというのを調べると、その土地のいわれが分かりやすいというのが川崎です。それが今も残っているのはすごいなと、僕は思っています。

なので、身近なところで歴史を感じるというのは、本当は地名なのだろうと思っているので、そういうのを少し入れてもらえると、地元の自分が住んでいるところの歴史が感じてもらえるじゃないかなと思います。

事務局（片岡）

ありがとうございます。地名は面白いですね。そこは紐解きが色々あると思うので、そこも考えていきたいと思います。また改めて共有させていただきます。ありがとうございます。落合さん、お願いします。

落合委員

川崎はどういうところだろうという点に関しては色々あるとは思いますが。今ちょっと考えたのは、やっぱり東京ではないし、横浜でもない中での川崎とは何だろう、それが少し分かると良いなと思ったりします。

川崎は結構独特な人が多いし、独特なところですよ。溝ノ口とかは。武蔵小杉は最近再開発されましたけど、ちょっと前まではちょっと違うようなところという感じがしていたので、そういうところとか。

もう一つは、今日たまたま川崎信用金庫さんからカレンダーもらって見ていたら、小学6年生の作文を見ていたら、麻生区とか長寿の町だ、ということを書いていて、宮前区も確か長寿で出ていたりして。そこら辺がなんでなんだろうと少し気になっていて。いろんなことがきつとそうなので、この本を読むとそこらへんがなんとなく分かるような本になったら良いなと少し思いました。

あと、それから思った点では、アンケートで結構フロンターレのことがいっぱい書かれていて、フロンターレのことを知りたいとか、そうなのとかかかって。

（目次案の）46 ページのスポーツは、そのイメージなのかもしれないのですが、私としてはフロンターレももちろん面白いと思うのですが、なぜフロンターレがみんなに好かれて、あるいは日本一になったのかっていうのをもう少し川崎ベースで書いてほしいなと思っています。要するに、監督が良いとか選手が良いとかいうレベルの話ではなくて、川崎の人たちが支えているとか、他の鹿島アントラーズとかサンフレッチェ広島とか、そういうところとはまた違って、川崎フロンターレの独特の文化はきっとあるはずで、そこら辺を深掘りしてできたら良いな、というのを一つ思ったりしています。川崎球場の話からもそうなのですけども。

あとスポーツに関しては、自分が小学生の頃、連合運動会というのがあって、等々力競技場で市内の小学校が全部集まって運動会をやっていたりして、結構それが自分の中では印象的でした。「あいつが出るから川崎の1位になる」と思ったら、なんか他の人に、他の小学校に取られたとか。（だから）あそこの小学校はすごいなみたいな、そんな話を含めて結構あったりした気がします。

例えば小学6年生ぐらいの体力測定っていうか、体力の変化みたいなのを少し追いかけるとか。要するにスポーツというのは、ただ単にプロスポーツだけではなくて、

小学生とか中学生とかのそういう人たちの運動というか体育というか、そういうのも含めてのものだと思うので。そういったところから「川崎らしさはどういうところなのだ」というのを、浮き彫りにしてもらえそうなものがあったら良いなと思っています。

同じように川崎の環境の問題でも、川崎喘息みたいのがあったのですけれども、それを乗り越えるために川崎市は結構一生懸命やられています。自分の子どもの時はやっぱりゴミの清掃車が毎日来たりしていて、今もう全然ダメなのですが、そんな感じで環境のまちっていうのを一生懸命改善しようとしてやっていたところがあって、それが今に至っているというのがあるので、そういうブラックなイメージがあったとしても、それを乗り越えていくっていうのを、どういうふうな形で取られていたのかなっていうのも、まさにそこもクローズアップする問題になると思うので、あると良いなと思っています。

やっぱり一つひとつのところから、「だから川崎なんだ」ということを描いていただけると良いなと思って。それが総合的に、最後に「川崎ってこういうまちなのだ」というのが出てくれると良いなと思っています。以上です。ありがとうございます。

事務局（片岡）

本当に色々なご意見をいただけて大変ありがたいです。

阿久津さんはまたオンラインなのですいません。お時間の関係で、また後日伺いさせていただければと思います。

（阿久津委員から寄せられたご意見は別紙に掲載しました。）

そういったところから、今回色んなところが出ましたので、かなり目新しいところが見られるかなと思いましたので。しっかり年表と目次の紐付けとか、そこからのコンテンツに対しての深掘りをしっかりした上で、誰もがと言いますか、ペルソナ設定に留意しつつも、読みたい・知りたいと思うものにしていただければと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

（次第一４） 第４回の宿題提示

事務局（片岡）

最後に第４回のところを簡単に説明させていただいて、よろしいでしょうか。

事務局（浅井）

第４回ですけれども、川崎市の「わた史」に載せるインタビュー対象者のご紹介を委員の方からいただきたいと思っています。

２回先なので、次の次までにどういった面白い方がいて、こういったテーマで話し

てくれると思いますというのを挙げていただきたいです。

その時にフォーカスしたいのは、その人物像ではなくて、その方の背景にある歴史的な出来事だったり、取り組みだったりするので、そのあたりを重視してください。人生が面白いとか波瀾万丈な人だということではなくて、川崎を表せるような方をご紹介してください。一つだけ留意していただきたいのは、「政治色が入らない」というところをご考慮いただければと思います。

以上です。また、次回以降はメール等でご案内させていただきますので、いつも慌ただしくすみませんが。ありがとうございました。

(次第一5) 総括/次回案内

事務局（浅井）

次回の日程は2月20日から3月7日あたりで予定しています。時間帯は夜間の予定です。内容は、市民への情報発信についてと、今日いただいたご意見を踏まえた目次の修正案を議論していただきたいと思います。

事務局（片岡）

そうしましたら、また次回も是非よろしく願いいたします。それでは皆さま良いお年をお迎えください。

以上